

愚作の詩を録し進候。富士山の詩は白石稱美に候。名山の事にも候間、題を賞翫に調進候。三宅生を送候詩は、安積氏に遺候へば、杜審言などが詩を見申様に候など、被申越候間、しからば少しは見所も有之やと是又進申候。西明寺の六境は、景致おもしろく被存候間、以上此三色調進申候。惡筆塞請申迄に御座候。以上。

八月廿日

鳩 巢

詠富士山

天邊倒挂玉芙蓉。自是扶桑第一峯。明月擬華三伏雪、赤輪飛影五更鐘。長風在下垂鵬翼、疊嶺環旁起蟻封。東海由來堪采藥。群仙方駕此中逢。

送三宅生適甲府三首

甲城群嶺西。關塞與天齊。霜下千年樹。雲生萬仞谿。猿啼山月小。鳥道夕陽低。眼底風物好。新詩幾處題。

雲邊青嶂合。攬輿曉霜飛。谷口葡萄熟。山中柿葉稀。星輝搖寶劍。寒氣透征衣。寄語東流水。君行幾日歸。

甲州產葡萄。滋蔓跨山谷。柿果亦甲州產。故詩中及此。迢遞關山路。朔風催歲寒。橋危懸樹杪。峰轉出雲端。阮籍

窮途哭。王尊上阪難。幸君書數字。爲我報平安。

余近頃衰老日加詩思日退。無足觀覽者。唯此送三宅生詩。頗爲友人所賞。故手錄以呈。

參州寶飯郡八幡村西明寺六境

平時賴遊歷之日。暫寓于此。號最明寺後改今名。

三高峯

寺後三峯杳可攀。中天積翠紺園寒。山雲晴出金銀屋。疑是蓬萊海上看。

萬松關

青松門外畫陰々。萬樹崔嵬秀色深。日暮雲歸群籟歇。空懸明月照禪心。

六光跡

傳云。昔中夜有光六處。如帶拖林間。參州刺史大江定基。爲僧改名寂照。結廬于此。號六光寺。今廢。寂照

遂入宋。

寂照當時海外遊。何年卓錫此淹留。六光寺廢無人識。唯有白雲繞古丘。

愛染池 有堂。安。靈愛染佛像。是寂照所持者。

琪樹琳宮鏡裏回。東林雨霽碧池開。微風吹塵蘋花夕。誰對金仙二採來。

不動坂 有堂。安。不動佛像。是平時類遺物。

松風蕭瑟度溪聲。碧石蒼苔無限情。昔日英雄今何在。空餘天竺古先生。

鷺 澤 永祿七年。東照神君臨幸此。尊主。其後賜給。其後賜給。其後賜給。

一自中原兵祓除。山青水綠百年餘。君看酣戰揮戈處。依舊夕陽下故墟。

西明寺在參州。最爲古迹。余作雖不足觀。亦可想見六境景致。因錄以供清閑之娛。

右佐州君治安書。題辭一弓。在別。詩章三紙。今房州君名政昌。因余所請于鳩巢先生者。享保十年乙巳秋八月遷致之於房君家。

一、改作奉行の人々

微妙公改作の法は、承應三年甲午より起り、松崎三郎左衛門・岡田左七・岡本小左衛門改作奉行に被命、越中は郡奉行山本清三郎、能州も同斷郡奉行勤之。前田七郎兵衛諸事此御用主付勤之、惣奉行の名目は無之候。

一、御家中代番の起原

御家中にて代番と云事、木村傳助祖父藤兵衛儀、八十歳許迄相勤候に付、勤番は御免也。然所其子茂右衛門五十歳に及申に付、爲冥加代番爲相勤度の旨奉願候所、尤に思召候旨にて如願相勤、代番と云事出來す。 堀正盛話

一、大石内藏助は富山の人といふ説

蟻川新右衛門は越中の産也。富山より一里許南の山方に西照寺村と云あり。西照寺とて一休閒基の由にて寺あり。新右衛門寺にて墓あり眞跡等多く今も有之と云。將又大石内藏助も越中富山の人にて、富山侯の臣奥村藏人次男也。淺野家へ幼少の時より養子に遣し、大石を稱す。實兄は奥村左左衛門とて、長門守殿御代迄勤仕候。藏人は富山にて高知組といふ。吉良野州を仇とし殺候時分、左左衛門等其儀落着迄不殘遠慮被命と云。 高橋記

大石本奥村氏成事可疑。父權内祖父内藏助事實淺野家

にて髓に相知候趣、鍾秀記義人録等に詳之。猶可問也。

一、連歌師兼載が名吟

兼壽が祖父兼載は奥州猪苗代の人也。連歌を善くするを以